

当院の LDL アフェレーシスと Online-HDF の併用療法

医療法人社団宝池会 吉川内科医院 ME 部

○小山裕未、加藤秀美、西後孝弘、松下雄太、十萬景子、藤井茂人、矢野晃司、開発あやこ、村石州啓、

吉川尚男、大前清嗣、吉川昌男

【はじめに】

近年では LDL 療法は閉塞性動脈硬化症など幅広い症例で行われている。

当院では治療中の血圧が安定している患者に対して、LDL 療法と Online-HDF (OHDF) の併用療法を DCS-100NX と JMS 社製マルチフローポンプ MF-01 を使用して施行している。今回は当院の LDL アフェレーシス療法の紹介とそれに治療スペースの縮小化と充填量の減量について検討したので報告する。

【当院の LDL アフェレーシス療法】

予め透析用血液回路で専用回路作成後、院内で滅菌。ヘモダイアフィルタ、1 次膜に OP-02 (アサヒメディカル社製)、2 次膜にエバフラックス 5A20 (川澄工業社製) を使用している。治療開始後、2 次膜側の圧をモニタリングしながら LDL を除去する。



図 1、旭化成メディカル社製
OP-02W



図 2、川澄工業社製
エバフラックス 5A20

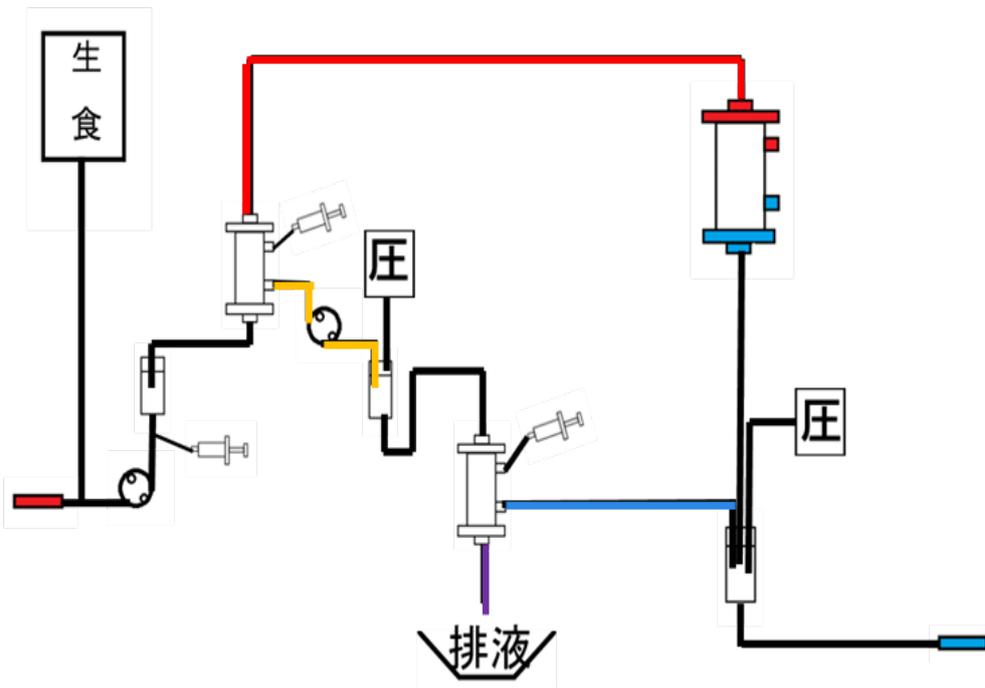


図 3、当院における LDL-A と OHDF の併用回路図

【まとめ 1】

OHDF の併用療法をする際、専用装置を使用した場合各社平均 50 c m の幅があるため透析装置 35 c m 程度と並列にすると最低でも約 1 m のスペースが必要になると考えられる。専用機器と透析装置の横幅を合計して示した(表 1)。当院での OHDF を施行するベッド間隔は平均 50 c m と狭く、当方法ではスペースの縮小化により専用ベッドを必要としないため都内のクリニックでの治療には有効と思われる。

表 1、当院の併用療法と専用機器を使用した際の併用療法の横幅

	幅[cm]	差[cm]
当院	42	±
MA-03	74	+32
ACH-Σ	79.6	+37.6
ACH-10	80.4	+38.4
IQ-21	87.4	+45.4

【まとめ 2】

患者の治療条件によってヘモダイフィルタ等は異なるため、回路のみの充填量で比較した（表 2）。当院の充填量は、実際に当院で使用している併用療法の回路を測定し、専用機器を使用する併用療法の充填量は、専用回路と透析回路の充填量を合計した。専用機器を使用する併用療法で想定される充填量に対して、当方法では平均して 122m L 充填量を減量させることが可能である。

表 2、当院で行う併用療法の回路と専用機器を使用した際の併用療法の回路の充填量

	専用回路	専用回路+透析回路
当院	—	168
MA-03	151	269
ACH-Σ	125. 7	243. 7
ACH-10	195. 3	313. 3
IQ-21	216. 1	334. 1

【まとめ 3】

当院併用療法は専用機器を必要としないため、透析室において同時に複数台での治療が可能である。また、日常的に使用している透析装置であるため、スタッフ全員が監視できる。

【結語】

当院の併用療法は専用機器を使用した場合と比べ大幅に充填量の減少が見込めた。また、通常の透析スペースで安全に施行することが可能である。